



1998年度卒業
国際文化学科

大野雅宏さん

株式会社アールラーニング
管理職（執行役員）
東京都在住

ユーラシア探検部

3年夏に自称「ユーラシア探検部」の朝倉・相澤君と、バックパックを背負ってアジアへ旅立った。

神戸から船で大陸へ入り、タクラマカン砂漠を駆け抜け、フンジュラブ峠を越えてアラビア海へ至り、羽田に着いたのは1ヶ月後という"過密"貧乏旅行だった。卒業後、朝倉君はトルコ、相澤君はウズベキスタンへ飛び、私はエジプト・アレキサンドリアで留学生活を送った。

感受性の高いこの時期に、海外を広く見て自分の価値観を揺さぶる経験ができたことは、その後の人生の方向性を決めるのに、大きな指針と



なった。「自分はどこでも、どうでも、生きていける」という漠とした自信をもてたのがこの時期だったと思う。帰国後、IT教育企業である株アールラーニングの立ち上げに参加し、5期目を迎えてい

る。過去に拘らず、行当たりばったりで進んでいくベンチャー精神は、「ユーラシア探検部」に発するフィールド経験で得た自信の賜物だと思っている。



1998年度卒業
国際文化学科

小林身依子さん

電子部品製造販売会社
資材購買部
ヴェトナム・ホーチミン市
在住

現地研修でヴェトナムを訪れ、混沌とした中にある躍動感に強く惹かれ、なんとしてでもヴェトナムに留学したいと願っていた折偶然構内の掲示で国費留学の募集を見つけ、念願叶い3年時に1年間ハノイ国家大学ヴェトナム

語学科へ留学しました。なかなか思うようにヴェトナム語が上達せず、また価値観の違い等で壁にぶつかり、想像以上に起伏に富んだ1年でしたが、かけがえのない貴重な経験や出会いを得ることが出来ました。就職難でヴェトナム

関連への就職を一時は諦めましたが、やはり諦めきれず1年後には転職活動をし、そしてヴェトナム・ホーチミン市に工場を持つ現在の会社に就職出来ました。ヴェトナム人スタッフとヴェトナム語でやり取りする日々が日本で4年続き、そして目標であったホーチミン工場駐在を命じられ、今はホーチミン工場で生産管理を担う購買部のマネージャーとして赴任し2年になります。仕事だけの毎日ですが、ヴェトナム人スタッフと一緒に仕事出来ることを心から幸せに思います。





1998年度卒業
国際関係学科

原 和世さん

財団法人大学基準協会
東京都在住

「楽しさ」の発見

私は、学部生として4年、国際関係学科研究補助員として3年、アジア地域研究科学学生として2年、計9年間を東松山キャンパスで過ごしました。その9年間で私は「知ることの楽しさ」「話すことの楽しさ」を見つけることができました。その楽しさの中身とは、興味があることに対し、食欲に調べることで、現地を訪れ、自分の目で見ること。そして現地の人々とコミュニケーションをとること、留学生との交流、講義やゼミで自分の考えを伝えることなどです。これらのことは、社会人となった今、会議資料の作成や広報誌の原稿執筆、また会

議や勉強会での自分の発言などにつながり大いに役立っています。

現在の勤務先は、日本の大学の評価を主な目的とし、その中で、私は、大学・学部の教育プログラムを評価する業務を担当しています。日本には734校の大学があります(2006年7月現在)。数字からみると、多くの大学があるのだから同じように学べる大学・学部があると考え方もいるかもしれませんが、大東文化大学国際関係学部で学べることは他の大学では学ぶことはできません。大学の理念・目的は各々ありますし、学部もまた同様です。日本でたっ



た一つしかないこの学部で、多くの在校生、そして将来の後輩が多くの「楽しさ」を見つけていることができるよう心からエールを送っていこうと思います。



1999年度卒業
国際関係学科

林 悦子さん

地方公務員
長野県在住

国際関係学部を振り返って

現在、私は小さな町役場に勤務している。普段は税金関係の仕事をしているが、ニュージーランドにある姉妹都市ワイトモの方々との交流するときには、通訳をしている。通訳をして初めてその大変さに気がついた。異なる国の人間の間で言葉が伝わるということは簡単なことではない。だから、私の通訳で互いに気持ちが通じあって喜んでもらえると、ものすごく嬉しさがこみ上げてくる。

この学部にはたくさんの思い出がある。在学中、上海出身の朱さんという友人ができた。同じ授業では、一緒に宿題をすることもあった。現地

研修で上海に行ったときに彼女の家を訪ねた。アルバムを見せてもらい、中国で一人っ子として育った彼女が大切にされている様子を感じるこ

ができた。これは今でも貴重な体験として胸に焼きついている。

国際関係学部の卒業生であることを今でも誇りに思う。





1999年度卒業
国際文化学科

樋口 冴さん

ニュース番組ディレクター
埼玉県在住

アラビア語、役に立ってます

「メッカ時間8時、グリニッジ時間で5時になりました。みなさんこんにちは、アルジャジーラからニュースをお伝えします。」

立て板に水とばかり早口のアラビア語。日本時間午後2時、お決まりの挨拶で始まる朝の看板番組『ハーザッサバーハ』が衛星回線で送られてくると、3時間後の生放送に向けてスタッフの動きが慌しくなります。

アルジャジーラは、アラビア半島の小国カタールの衛星テレビ局。イラクでの日本人質事件で日本でも有名になりましたね。現在NHKではこのアルジャジーラを一日2

回、日本語訳付きで放送しています。

私の仕事は、他に香港・韓国のニュースを併せてBS1で放送している番組のディレクター。通訳さんは別にいるのでディレクター職に語学が

必須というわけではありませんが、やはり解るに越したことはないという感じでしょうか。何の役に立つのかと周りから言われ続けたアラビア語ですが、おかげさまでなんだか役立っています。



社会への第一歩

○職種のスカーレットレター
(The Scarlet Letter)

「海外営業」、自分が現在まで多分この先続けられる仕事であると思われる。2002年日本で大学院を卒業し韓国に戻り最初の就職先が電子部品関連 (Display関連部品) の仕事であり、2回も転職したものの、その職種は未だに変わっていない。これからもずっと自分の履歴にはこのことが刻まれ、他の職種に就くことはかなり厳しいと思う。自分が興味を持って頑張れる職であれば話は別だが、ただ景気の悪さに追われ、時間に焦らされ単に就職することを最優先にしたことは愚かなこ

とだった。しかし、世の中現在の仕事に満足している者の割合は指で数えられるぐらいであると自分に言い聞かせ、無理に意味を探しながら反抗もせず、人並みに生活するため、現実には充実している。

* 卒業後、仕事を探す時は余裕を持って、冷徹、綿密に自分の適性を考慮し、長く就ける職種を決めることが大事。

○文化を超えて

「海外営業」、感じでは格好良く聞こえる。しかし、二つの国の企業を結びつける大変な仕事である。言語は勿論、企業文化までうまく調整しないと実績までは届かなく、水の泡になることは茶飯事。例

えば、日本は長年の技術的なノウハウで数多い源泉 (核心) 技術を持っている。色々な試行錯誤を経て、「石橋も叩く…」よう几帳面な企業文化。反面、韓国は源泉技術は日本から学び、時間をより短縮させることを武器に、Display関連事業では日本と肩を並べる。各々、長所・弱点は存在するがこの隔たりを相互理解を求め縮めさせるのが主な役割である。異文化を勉強している大東文化大学の「国際関係学部」であればそのスタートは早い。

* 両国に挟まれ、仕事を進める際には学部で学んだことを基に各国の特徴を考慮し、上手く調整することが大事。



1999年度卒業
国際文化学科

柳 馨善さん

韓国 vs 日本
Display 関連海外営業
韓国水原市在住



2000年度卒業
国際関係学科

新井 剛さん

大東文化大学大学院
アジア地域研究科
博士課程在籍

うーん
(よくわかんないよお…)
っていうのが正直なところ

「学生時代」
とかそんなくぎりは意味なくて

ぼくはちいちゃいころから
ずうっと音楽しかやってこ
なかつたんで

好き勝手やっているだけな
んで

わるいんだけど
「後輩に対するひとこと」
なあんて、いえないんだよ

きみはきみのからだどこ



ろをつかって、きみがすき
なことをすればいいんだ。。

よくわかんないんだよね
いまだに

なんでこんなことやってん
だ？

とかまいにち
だからね

ぼくからは
なんともいえない



2000年度卒業
国際関係学科

庄司玲子さん

東京都在住

「たのしき時間」

大学4年間で得られたもの
その① 自分が老いて逝く瞬
間までの「いきがいにで
きる勉強」を探しあてられ
た！こと。

その② オッパイもお尻もた
れて、ツルピカッ！ハゲ頭
になっても、利害関係ゼロ
で「ケンカできる友人」に
めぐり合えた！こと。

その③ OGとなった今日で
も、ガード下の立ち飲み
焼き鳥屋さん！で人生論
について、スッキリと激論
でき、激賞の祝杯ができる
「たいせつな恩師」に出会
えた！こと。

大学時代が人生のなかで、
寝る間を惜しんで「夜遊び」

にいそしみ、メシ代削って「参
考書を購入」し、悪友とぶっ
倒れるまで、おのおのの勉強
を競争しながら猛烈に真っ当
していた……そんな泥と汗ま
みれになった、わたしの大好
きな時間だった。



あなたはいくつのお金では
決して買うことのできないも
の！を会得でき、それを自分
の生きるエネルギーに還元で
きるのだろうか？

受け身のまま、グチばかり
いって「薄汚く老けた厚化
粧の人生」より、自分に同情
することなく「苦しさを笑い
飛ばせるドツカリかまえた人
間」であるほうが、「より美
しく、輝いていられる人生」
なのだと思う。

以上が、学生生活から習得
した「学びの哲学」である。

学生のみなさん、毎日の学
生せいかつに「花を咲かせる
くらい！」努力しましょうね。

自分で口にしたことは、
ちゃんと自分で責任を持って
くださいね。いつも自分を愛
せる、誇れる人間であれ！
(大学生活が大好き！だった、
卒業生のつぶやきより)



2001年度卒業
国際関係学科

大沼範昭さん

MUGEN North America Inc.
Ltd. (自動車レース事業と
パーツ販売)
カリフォルニア トーラン
ス在住

在学生諸子へ

2ヶ月ほど前『国家の品格』(藤原正彦・著)を読みました。昨今の間違った?国際化に否を唱え、武士道精神回復を謳い、荒廃する日本国家に警鐘を鳴らす内容であったと記憶しています。

国家とは本来・・・、などここで独自の国家論を語るつもりは毛頭ありません。ただ、人生において、それぞれ「国家の品格」について考え意見を交わしたのはあの国際関係学部の東松山キャンパスだけだったような気がします。少なくとも、通勤ラッシュの席の奪い合いや、一分早くタイムカードを切ってしまうことに一喜一憂する今の生活

には到底ありえないのでしょうか。

国際関係学部の東松山キャンパスはそんな環境を提供してくれる場所なのです。

在学生諸子! キャンパ

スライフは恋に宴にアルバイトだけではありません。友や教授と国是を語るのもまたしかり、なのではないのでしょうか。



「大東文化大学国際関係学部と今の私」

私が1996年10月韓国から来日し、1年半の間の日本語学校を経て、大東文化大学国際関係学部に入学したのは、1998年4月である。東アジア社会を専攻し、とくに興味を持っている東アジアに関する社会・歴史・文化・経済などを勉強した。それとの関連で必要不可欠である中国語や英語も勉強した。そこで、大学の4年間一番勉強になったのは、自分自身が韓国人であり国際人であることを感じたことであり、これをもっと深く理解するために、大学院への進学を決意したのである。

大学2年の夏休みに、中国人の文学者の「郭沫若(1892

～1976)」を知りはじめた。郭は、日本の大学で勉強し、日本人の女性と結婚し、日本に住みながらも、当時の日本に植民地化されていた朝鮮に同情し、日本を批判したことに、私は深い関心を抱いた。卒業論文は、「抗日戦争時代の郭沫若—その政治活動と詩作」という題目で書き、また、郭が九州大学医学部出身であって、彼の文学者としての出発点となった福岡の地で勉強したくなった理由もあって、私は九州大学大学院への進学を決心した。

2004年4月、博士課程は中国でと考えていたところ、内田先生のお勧めで重慶市に渡

り、四川省成都市の「四川大學文學與新聞學院」博士課程(比較文學與世界文學專攻)に合格した。2004年9月から現在に至るまで、この大学で研究を進めさせてもらっている。

私は将来的に学者になることを夢見ている。この夢を持ちはじめたのは、大東文化大学国際関係学部の時代からである。それは、今まで私の人生のなかで、いちばん楽しかった時期であったと確信して言える。

将来的には、近くて遠い国東アジアの関係をもっと深く理解し、東アジアの交流および平和に少しでも力になればいいな、と思うばかりである。



2001年度卒業
国際関係学科

権五明さん

九州大学大学院、中国・重慶市での語学教師(韓国語、日本語)を経て、現在、中国・四川大學大学院(博士課程)に在籍



2001年度卒業
国際文化学科

浜口香織さん

タイ バンコク在住

「タイでの生活の原点」

大学時代タイ語を選択し、3年次に提携校のチュラーロンコーン大学に半年留学をしました。留学中はタイ語以外にもたくさんのことを学びましたが、さらにタイ語を磨きたいという思いが強く、卒業を機にタイで働くことを決心しました。

現在日系の会社で日本のお客様への対応、翻訳等の業務をしています。仕事上タイの省庁に出向くこともあり、本場にいろいろな経験をさせてもらっています。

会社内のスタッフはほとんどがタイ人のため、社内でのやりとりは主にタイ語です。法律専門用語を使う機会が多

いため、伝えたいことが思うように伝えられないというもどかしさを感じることもありますが、毎日新しい発見があり充実しています。

また仕事以外にも、タイに来てから新しい趣味をいくつか見つけることができました。それを通して知り合った友人も私の大事な財産です。

私にとって、今の充実した生活の原点は大学時代の留学にあると思っています。もし留学をせずに日本でタイ語を学んでいるだけだったら今の生活はなかったでしょう。留学以外にも、大学時代にはいろいろな可能性があります。在校生のみなさんには、その

大学生の特権を上手く活用し興味があることには思い切って踏み込んでいって欲しいと思います。たとえ思い通りにいかなかったとしても、何かが今後の糧として自分の中に残るはずですよ。



2001年度卒業
国際関係学科

吉野航太さん

株式会社ベネフィット・ワン
コンサルティング室
リーダー
東京都在住

書を捨て舞台へ

壁に1枚の集合写真と1枚の賞状が6年前から飾ってある。

皆勤賞

吉野航太殿

あなたは、第3回スピーチコンテストを行うにあたり、惜しげもなく講義を休み、いつもそこにいました。あなたはプロデューサーとして、時には無邪気におはロック♪を踊り、時には熱く若い衆についての思いを語り、「書を捨て舞台へ」のコンセプトのもと、溢れんばかり知識と技術で、率先して行動し、組織を全力で統括してきました。そのおかげでスタッフ一丸となり、すばらしいステージを

創り上げることができたことを、ここに賞します。

講義に出ていなかったけど、あなたは皆勤賞！
平成12年12月●日

ASC#3スタッフ一同
閉会式のあとのスタッフロール。まさか、あいつらがこんなサプライズを用意しているとは思わなかった。最高のスタッフだったよ、お前ら！

文化は外から持ってくるだけでは育たない。自ら創り上げてこそ、価値のあるものが生まれ、そして根付く。ここには、魅力的な人材とコンテンツが眠っているのだから。

月明かりは浮かび消える

スポットライト
書き綴られていくそれぞれのシナリオ
人は皆、主人公になりたがっている
キャンパスは劇場になりたがっている

書を捨て舞台へ

(第3回スピーチコンテストキャッチコピー)





2002年度卒業
国際関係学科

李 鎮相さん

株式会社ソワン
横浜市在住

2カ国語が話せれば……

私は将来国際的な感覚を持つ者になりたいという夢を抱きながら韓国の清州市役所に休職届けを出してから来日し、1999年国際関係学科に入学しました。そして、学部と大学院、計6年間一生懸命学業に励みました。

国際関係学部のメリットは母国語以外に他国の言語を学ぶことだと、私は思います。夏休みを活かして現地で勉強ができる、そこで友だちができる、そして様々な文化や習慣などが体験できること…等など。また、毎年行われるASIA MIXでの『アジア料理祭』、それによってアジアの文化がもっと身近に感じ

られることも…。学部の時、私は何人かに韓国語を教えたことも、国際関係学部主催のスピーチコンテストに出て優秀賞を受賞したこともあります。言語の上達の一番は現地へ行って留学することですが、日本で留学生と積極的に付き合っていくことも大切。2ヶ国語が話せれば、きっと将来良い仕事に繋がるはず…。

日本での学業のため安定的な仕事を辞めた私。卒業したら40代半ばが過ぎる。若干の不安も…。し

かし、現在は2カ国語を活かして美容粧剤の開発や製造、そして海外に輸出している『株式会社ソワン』という会社で、営業企画や国際業務分野に従事しています。



2003年度卒業
国際関係学科

小林明代さん (旧姓・大橋)

アニメーション制作会社勤務
埼玉県在住

決まりごと 人生に「ルール」は無い

私は、卒業を迎えてもなお「先の道」が決まっていなかった学生だった。

しかし私には、アニメの企画、監督をしたいという「夢」があった。

卒業後、一人暮らしの私は、日払いのバイトで毎日何とか凌ぎつつ、押寄せる厳しい「現実」と闘っていた。「夢は、夢のまま終わるから夢なのか？」と諦め始めた頃、偶々見た求人誌に載っていたアニメ制作会社に応募した私は、採用された。

ガムシャラに働く事2年。私は現在産休中だ。子どもの存在を知った時、私は「夢」半ばのリタイアを迫られた



気がしてならなかった。子育てと仕事の両立は困難だからだ。悶々とした日々の中、偶々ある監督に私の「夢」を話した所、絵コンテの指導をして貰える事になり、産休中の今も課題を頂いている。

諦めれば其処で全て潰え

る。しかし、^{チャンス}機会を掴む少しの行動力と、熱意と、継続する努力で、自身の望む道に光が差し込むように思う。

人生に「ルール」は無いのだから。



2003年度卒業
国際文化学科

山本 史さん

翻訳家
ベトナム・ホーチミン市
在住

紅い火炎樹と自転車の君

夜半から降り始めた雨は、夜明けにはやみ、窓を開けるとやわらかな陽射しがあった。下を眺めれば、真白なアオザイに身を包んだ君がいた。

幅広の帽子を被った君は、自転車のかごに鞆を放ると、アオザイの裾をそっと掴んで左手のハンドルを握り締める。

ひとつ、ため息をつき、右足を踏み込む。

薄暗がりの細い路地を進むと川沿いの道に出る。こぼれんばかりに果実をのせ、舳先に目玉をつけた舟が追い抜いて行く。路傍に並ぶ屋台から上る湯気、忙しく朝餉をと

る人、鼻孔をくすぐる蒸り。

傾斜の大きな橋を一気に駆け上ると、サイゴン川の遙かなる流れが見える。眼下に行き交う舟は、競うように水面に軌跡を描き、軌跡は軌跡とぶつかり静かに消える。

下りの傾斜に身を任せると、車輪は回転を増し、君は

一陣の風となる。

自動二輪の急流で、君は一人、軽やかにペダルを踏む。目深に被った帽子の下からのぞく眼差し、やさしく香る長い髪。

君は行く、紅く咲き誇る火炎樹の下を。



現地研修は一生の目標を作ることのできたきっかけ

現地研修初日、中国語が大の苦手であった私は成田空港に向かう車中で「中国なんて行きたくない」と父に言い放ち大喧嘩をしたのを良く思い出します。

中国人の学生にとって勉強は、将来への希望。勉強が終われば、スポーツを。毎日忙しく人生を楽しむ姿に感動し、帰国後の車中でなんと私は父に「中国に留学する」と申し出ていました。

留学費を貯め念願の留学開始直後、SARSが発生。本当に大変でしたが、外国人留学生と毎日勉強した留学生生活はそれまでの人生の中で1番楽しい時でした。



そこで帰国後単純ですが一生繰り返す事を目的に「昨年よりも今年を楽しむ」と言う目標を立てました。

あれから数年、転職を経験し現在は商社で中国関係の仕事を楽しみつつ、幸いにも毎年目標を達成する事が出来て

おります。

最後に目標のきっかけとなった両親、大東文化、周囲の人々に感謝しつつ、在校生には人生を楽しむ為、色々な事に興味を示し努力して頂きたいと思っております。



2004年度卒業
国際関係学科

小林慶太さん

野村貿易株式会社
インダストリー部門
機械・先端事業部
機械ビジネスグループ
東京都北区在住



2004年度卒業
国際関係学科

関根理恵さん

大東文化大学キャリアセンター
キャリア支援課勤務
埼玉県在住

「悩んでも答えが出ないならとにかくやってみよう」「毎日を大切にしよう」私はこれをモットーに日々生活しています。この考え方はインド留学での経験によるものだと思います。私たちは生きていくことを当たり前とし、それ以上のものを求めますが、私が留学先で出会った人たちは生きること必死で、生きるために生きているという、これまで感じたことの無い印象を受けました。毎日を大切に生きることに貪欲な彼らを見て、私ももっと一生懸命に生きなくては、と考えるようになりました。

帰国後は就職活動や教育実



習等で躓き、臆病になることもありましたが、「悩んでも始まらない、とにかく行動せねば」と自分を鼓舞し、積極的に行動しました。何かすれば必ず得るものがあります。得ただけ自分を高めることができます。現在、私は本学のキャリアセンターに勤務しています。就職活動中は

思い通りにいかず自信を喪失したり、将来のことを考えすぎて身動きが取れなくなってしまうことがあります。そんなとき、私は学生に「とにかくやってみよう」と声をかけます。やってみないと何も始まりません。何も変わりません。皆さん、「とにかくやってみましょう」



2004年度委託研修生
アジア地域研究科

サリル・ワイディアさん

日本語の翻訳・通訳
インド（ブネー市）在住

思い出ほろほろ

私は、2003年から2005年までアジア地域研究科に在籍していたインドのサリル・ワイディアと申します。

現在、インドのあるソフトウェア会社で翻訳・通訳の仕事をしています。設計書から使用手引書まで、幅広い種類の文書の和英・英和訳を担当しています。また、お客さまとの電話会議で通訳もします。

アジア地域研究科の篠田先生の指導のもとで身に付けた緻密に文章を書く技術を毎日の仕事に活かしています。

今の私があるのは、私に親切に指導してくださった篠

田先生と石田先生のおかげだと思っています。

一人の留学生としての経験を400字で纏めるのは難業ですが、直接的に、そして間接的に私の大東文化大学での2年を過ごしやすくしてくださった方々にこの短文を通じて感謝致します。

徒然の慰みに、日本での2年を思い出すのですが、思い出すたびに、悲しいような淋しいような気分になってしまいます。日本の春夏秋冬が両手をいっぱい広げて私を招いているような気がしてやみません。

またいつか日本に行って篠田先生と、そして唯一の友

達の荻野俊介と駅前のシルヤで熱いラーメンがすすりたいものですね。そういえば、石田先生に連れて行って頂いたインド料理屋の料理も美味かったですね。





国際関係学部
第二研究棟事務室

ふるみまさこ
古海真子さん

20周年に寄せて

国際関係学部設立2年目の1987年から現在まで、約20年間、研究棟一階の事務室に勤務しています。学部の歩みとほぼ同じ年月になりますね。

私が働き始めた頃には、研究棟の建物はほぼ現在の形で完成していましたが、レイアウトはずいぶん違っていました。今大学院生の研究室や現代アジア研究所のある場所には先生方の研究室があって、私のいる事務室自体も今の半分の大きさでした。

学部ができた頃は今よりのんびりしていて、先生方が授業の合間に事務室でお茶を飲みながら、よく話をしていました。学部のこれからのことや、研究についてもお話されていましたが、アジアの国々の話が印象に残っています。先生方も誇張して面白く話していたのかもしれませんが、シャワーから砂が出てくるとか、食あたりするからアイスクリームは食べられないとか驚かされる話が多くて、その頃はアジアは怖いなあという印象でしたが、今は変わったのでしょね。

また、ネイティブの先生がお国の料理を差し入れてくれたり、おいしいお店を教えてくれたりしたこともありました。

私自身はアジアに旅行したことはないのですが、この事務室にいて、ずいぶんアジアのことを教えてもらいました。

学生さんは個性的な子が多いなと思いました。ゼミで"どぶろく"を作るんだという子がいたり、現地研修のお土産をいただいたりしたこともありました。卒業論文が仕上がらなくて、提出日に泣きながら研究棟で書き上げた学生さんもいましたねえ。あの子は元気なのかしら…。

卒業してからも先生を通じて学生さんの消息を聞くことがありますが、結婚などの報告を受けると嬉しいですね。

20年間勤務していて変わらないことですか？ 若い学生たちと関わっているせいか、先生方は何年たっても若々しいなあということですね。

実はひとつ残念に思っていることがありまして、毎日先生方と関わっていても授業が受けられないことなんです。もう一度学生に戻れるなら、国際関係学部で勉強してみたいと思っていますんですよ。(談)



国際関係学部の事務室には、1994年から2001年までの8年間在籍させていただきました。印象に残っていることは、他学部と異なり、さまざまな経験をさせていただいたことです。

まず驚いたのは、一学部で9言語が開設されているということが、他の学部と大きく違うと感じました。そこから学生が1言語選択し、積極的に学んで現地研修に参加し、さらに言語を生かし地域の事項を学んでいる。また、地域の料理祭であるASIA MIXなどで感じましたが、自分の選んだ地域を大切にしているなどと思いました。

学生には、個性的だけれど目的意識があり、「やるときはやる」という印象があります。反応のよい学生が多く、対応も楽しかったですね。4年間同じ校舎で、1年次から専門分野の教員や先輩と触れあえる環境がプラスになっていると思います。

特に国際の学生と教員の発案から始まった「英語スピーチコンテスト」（高校生・一般参加も対象とした全学イベント。以降継続して毎年開催）を一緒に立ち上げたのは、とても思い出に残っています。

先生方の研究室にもよく行きました。それまでアジアについては限られた知識しかありませんでしたが、専門の研究者である先生方からいろいろ教えていただいて、アジア全体の広い知識を得られました。

先生方は学生の教育環境及び教育方法等を考えて、バックアップしようという意欲が高かったです。また、私たち事務職員としても、本音で話して連携よく仕事ができました。

学部事務業務で大変だったことは特にはないのですが、皆さんが現地研修から戻ってくるまでが、いつも心配でしたね。一度だけ帰りの飛行機にトラブルがあったと知らせを受けた時がありました（注：無事帰国）、それ以外は大きな事故がなかったと思います。それでも毎回無事に帰国と知らせを受けると、ホッとしていました。

とにかくユニークな学部で楽しかったです。私自身が勉強させてもらいました。多くのことが体験できる学部ですので、学生の皆さんにはこれからもアジアに目を向けて、積極的に活動してほしいと願っています。（談）

個性豊かでユニークな学風



入試部長

おだしまたけゆき
小田嶋武行さん





新しい時代を担う：
卒業生、学生の皆さんへ
現職教員からのメッセージ。





1986年度赴任
国際関係学科
国際法

白杵英一

教師の喜びは、遠くで卒業していった学生諸君のうわさを聞くことです。

いろいろ迷惑かけたね。ありがとう。頑張つて。



1986年度赴任
国際文化学科
中国語

大石敏之

国際文化の大石です。相変わらず声調練習に明け暮れております。気が付けば学部創立以来はや20年。月並みな表現ですが、正に光陰矢の如し。創設以来のメンバーも今では少数派に。でも新しい血が注ぎ込まれることは学部の活性化にも繋がります。歓迎すべきことだと思います。大学を巡る状況にも以前とは異なる

大きな変革の波が押し寄せて来ています。私のような頭の古い人間にも従来の慣例に囚われずに意識改革を行うことが求められているのでしよう。わが学部の益々の発展のために微力ながら寄与することができたらと考えている今日この頃です。



1986年度赴任
国際文化学科
ウルドゥー語

片岡弘次

ウルドゥー語の試験で落第したものがこの大学でウルドゥー語を教える人になって20年、人生とは何とおかしなものか。

この20年の間、学生に何を伝えてきたかと問われれば、胸を張ってこれだと言えるものはなく、ただ「みなさん、人のしないことをしましょう」のひと言であった。

2度目の2年生のウルドゥー語

の授業で読んでいた短編小説に出てきた口の不自由な片思いの主人公に自分の姿を見て、その先の話が知りたくて、辞書を引きはじめて予習を始めたのがウルドゥー語の勉強の始まりとなった。

馬鹿も利口も命は一つとは名言、その命を大切に、みなさんがよき出会いに恵まれ、人のしない未知の世界を歩いていけることを祈る。



1986年度赴任
国際関係学科
南アジアの社会

篠田 隆

本学部の創設とともに30代半ばで奉職したので、暫くの間、第2の青春を学生とともに過ごしたような実感がある。当時のアルバムを開くとあちらこちらに学生が写っている。インドで挙げた結婚式に参列する学生、飲み会で私の幼子と遊ぶゼミ生、引越手伝いに集まる力自慢の女子学生など。学生は4年サイクルで入れ替わるが、アルバムに残され

た彼らとの交流の軌跡が色褪せることはない。「青臭くひたむきに」がわたし自身の、そしてゼミの信条であった。時は移り時代状況は変わったが、20周年の節目を機会に、再度「青臭くひたむきに」の誓いを新たにしたい。願わくば、情熱と試行錯誤の織り成す第3の青春をこれから謳歌したいものである。



1986年度赴任
国際関係学科
東アジアの社会

新納 豊

毎年大晦日に1年間を振り返り、修正すべきところがあれば修正するという辛気くさいことを26歳の暮れから続けている。欲のない人間だから大きなプレもなく、そのまま「オーライ」で済んでしまうことが多い。数年前に50歳を迎えたので、その年は1年間ではなく30年間を振り返った。そして、30年前に自分が「目標」としていた人物たちが

当時50歳前後であることに気付いて愕然とした。このままではマズイと思った。それから努力は続けているが、この歳になるとなかなか舵取りは難しい。さて、私は学部創設時に36歳で赴任したのだから、1990年に卒業した第1期生はすでに当時の私の年齢を超えている。素知らぬ顔で酒を酌み交わしてみたい。



1986年度赴任
国際関係学科
英語

E.マーゲル・Jr.

Professors Ohno, Kojima, Hayashi(2), Hattori, Yanagisawa, Tada, Ikuta, Kitami, Hirose, Hermawan, Yamakawa, Ito, Furukawa, and many more. Faculty office staff Tanaka, Nakata, and many more. All the students. It is the people and their spirits who will remain, forever, walking the halls of the Higashimatsuyama campus. Do you ever think about our wonderful colleagues, past and present? Please do. Education is ideas. Ideas from people.



1987年度赴任
国際関係学科
アジア史

内田知行

歴史学を学びつづけながら思うことは、フランスの歴史家、マルク・ブロックが言った「理解することの大切さ」です。ブロックは、次のように述べています。「ひとつの単語が我々の研究を支配し、照らしている。『理解する』という単語である。我われとは違う人、たとえば外国人、政敵は、ほとんど必然的に悪人と見なされる。たとえ避けられない闘い

を進める場合でさえ、魂をもう少し理解する必要がある。まだ間に合うときに闘いを避けるためにはなおさらである。…歴史とは、人間の多様さの広い経験、人びととの長きにわたる出会いである。人生も学問も、この出会いが友愛的になることで得るものは大きい」（松村剛訳『歴史のための弁明：歴史家の仕事』）。



1987年度赴任
国際文化学科
比較芸術学

田辺 清

本学部で最初の教壇に立ったのは1987年4月15日（水曜日）の3限である。科目は現在も担当している「比較芸術学」で8号館のゼミ教室だった。あの時の受講生の半数くらいは記憶している。あの緊張感・充実感が今日の私の原点といえる。当時から今日に至るまで国際関係学部の学生気質はほとんど変わっていない。時には素直すぎるくらい私

が伝える芸術作品への感動を受けとめてくれる。それに甘えて私の随分言いたい放題やってきてしまっている。偏見を植えつけていないかと心配にさえなってくる。それでも彼らは私のことをいつまでも憶えていてくれる。

あと20年経ってもこの想いは変わらないだろう。それがこの学部のすばらしさである。



1987年度赴任
国際文化学科
西アジアの社会

原 隆一

「10年一昔」、20年となると「二昔」である。学部開設の2年目からここにお世話になっている。講義、演習、現地研修、それに各種委員会や研究会といったものが主な仕事である。その中で強く印象に残っているのは、現地研修や卒論合宿で行った孺恋や菅平、それにイランなど、キャンパスの外で発見した個性豊か

な学生たちとの出会いであった。同僚の教職員、それに卒業生たちと学部20周年記念を祝いたい。もちろん、近年の大学をとりまく環境は厳しい。ここで気を引き締め、2期目の20年に入る新しい出発の時としたい。



1987年度赴任
国際文化学科
美学概論

樋口桂子

早いもので、この大学に赴任してからもう19年が経ちました。就任のときに生まれた赤ちゃんが、大東大に入学したならもう2年生になっているわけです。そのことを思うと感無量ですが、その年月のわりには、わたし自身は進歩もなく、ただ老いていくことを実感するのみです。とくにこのところ、体力・気力の加速度的な衰えを感

じています。19年は長いようでいてやはり短いですね。

19歳、あるいはその年齢近くの学生のみなさんは今から人生の舞台に飛び出していくわけですね。そうした若い人たちに何か少しでも教えられる職業に就いたことを、感謝しています。



1992年度赴任
国際関係学科
東南アジアの社会

福家洋介

国際関係学部が生まれた20年前といまを比較すると、残念ながら日本の社会はとても住みにくくなった。国際社会はそれ以上に住みにくく、息苦しさを覚えるほどになった。おそらく20年前に、多くの人びとは今日の状況を予測していなかった。卒業生が日本と世界を舞台に活躍できる世界、平和で右肩上がりの経済がいつまでも続く

期待していた。

しかしそんな時代は、日本だけでなく世界の多くの地域からどこかに吹き飛んでしまった。みんなが「中流」だと思った社会は崩壊し始めた。大学は社会の激変に対抗するのではなく、対応に追われたのだった。私にとって、力不足を思い知らされた20年だった。



1993年度赴任
国際文化学科
ヒンディー語

石田英明

当初は非常勤講師として、正式には学部創設2年目からお世話になりましたが、実際は1年目から、鳥羽嶺次郎先生のお手伝いという感じで、ヒンディー語の授業に出たりしていました。その頃、ヒンディー語はけっこう有力な言語で、つまり、学生数も少なくなく、1994年度には、最大瞬間風速的に、1年生の履修者が40名に達したこともあり

ます。今となっては信じられないような隆盛で、どうしてあんな時代があったのか、20世紀が本当に懐かしく感じられます。今では弱小言語に転落してしまったようで、履修してくれる学生はまるで神様のような感じです。インドブーム到来と言われていた昨今の波に何とか乗りたいと願っている今日この頃です。



1993年度赴任
国際関係学科
英語・比較経営史

小林啓志

OB、OGの皆さん、お元気ですか。私も本学に奉職して14年目になります。多くの方々とお逢いし、多くのことを学ばせて頂きました。多くの悔悟と反省があるばかりです。

本学を卒業され、新たな道に入られた皆さんも、如何ばかりの卒業の日々であられたことでしょう。健康でありさえすれば、大抵のことは乗

り越えて行けます。自分で始めたことは、もう一度その時点の自分に戻り、もう一度やり直すことができます。そして、その悔悟と反省の上に立って、新たに生き直して行って下さい。やり直すことはできるのです。

二度と来ない同じ春を、夏を、秋を、冬を精一杯生き切ってください。その先に何かあると信じて。皆様の健康と御多幸をお祈りします。



1994年度赴任
国際文化学科
タイ語・人の国際移動論

小泉康一

学部創設時は非常勤として、後に専任教員としてこの学部にかかわってきた。創設年の1986年は、完成まもないきれいな校舎群ではあるが、しかし人の姿はなく、半ば清潔本位の病院のようで奇妙な静けさを感じた。しかし、その後毎年1学年分の学生260人が増えていくのに伴い、にぎやかさを増していった。

そして新学部創設のため、選りすぐられた講師陣の先生方が赴任されてきた。先生方は、学問的にも、人間的にも大きな人が多かった。社会を、世界を広く見据え、細部に拘泥せず、グランドデザインを描いていく姿勢には学ぶ所も多かった。この学部が本来持っている知的に闊達な、その伝統を見失いたくない。



1994年度赴任
国際関係学科
国際関係論

松井弘明

大学の教員にとって、学生とのふれあいこそ、他の職業とは異なる、得がたい部分であろう。学生を指導しながら、学生から多くのものを学んできたと思う。思い返すといろいろな学生の顔が思い浮かぶ。現地研修で一緒だったMさん。就職先の社長と気が合わず、落ち込んでいたが、パン屋に就職してから急に明るくなり、先日職場の人と結婚しました！という手紙と写真を送ってきた。就

職を世話してあげたKさん。職場の人からも気に入られていると思っていたのだけれど、ある日突然やめてしまった。体調を悪くして何年かは苦しいときを過ごしたらしい。しかし最近、友人と一緒に台湾に行ってきました、という元気な手紙をもらった。在学中のみならず、卒業してからも様子を知らせてくれる元学生達との交流が、元気のもののように思える。



1995年度赴任
国際文化学科
インドネシア語

押川典昭

本学に来たのは95年10月だから、国際関係学部³の歴史のおよそ半分を過ごしたことになる。この10年余り、どれくらいの数の学生と顔を合わせてきたのか、年々歳々、入れ替わる学生たちを相手に飽きるということがない。当たり前ながら、ひとりとして同じ顔、同じ性格の学生はいないのだ。生涯のうちに出逢うことのできる人間の多さという点で、

教師は恵まれた立場にある。そんな特権的な立場にありながら、しかしさて、私はこの10年間になにを学んできただろうと考えてみると、内心^{じくじ}忸怩たるものがある。大学教師という権威に寄りかかって、その高みから学生諸君にあれこれ説教じみたことを言ってきただけではないのか。そんな自問をくり返しながらいたずらに歳を重ねてきた気がする。



1995年度赴任
国際関係学科
国際経済論

柴田善雅

本学に就任して12年目、この間病気休講皆無、自己都合の休講は2日ほどで、在外研究等の理由の長期離脱もない。学内行政より授業優先で勤務した。大学教員の人事異動のない極めて退屈な世界では、毎年繰り返す業務の中で倦まずに自分の目標を維持するのは難しい。研究にも時間を割き努力はしたが、非力なため成果は乏しいままだ。この12年

で学生の知的水準の低下と、柴田の体力の衰退が進んだ。本学と本学部のF転落を危惧するが、本学部の将来について万年ヒラ教授の柴田にほとんど責任はない。今後も役職者でないため余計なことを考えず、命(健康)と首(職)と財布(給料)を心配しながら、与えられた仕事を黙々とこなすだけだ。



1995年度赴任
国際関係学科
政治原論

新里孝一

20回目のアジアミックス(料理祭)が開催された。今年は「大豆のアジア学」でお世話になっている鳩山町の人々が大勢きてくれた。その大半は高齢者の方である。味覚にあうか少々不安だったが、3カ国分の料理をべろっとたいらげられた。味のよさと、なによりも、20年にもわたって、学生の手だけで料理祭が続けられていることに感心していた。「安

心していただけます」といって翌日も来てくれた人がいた。キャンプラに集う学生たちの賑わい、そこに漂うアジア料理の風、そして、屋台を仕切る生き生きとした「料理人たち」の表情、どれも20年にわたって、多くの学生が手間を惜しまず営々と培ってきた学部の「文化」なのだと思った。



1995年度赴任
国際文化学科
ペルシア語

山田 稔

学部が創設されて20周年を迎えて、皆様とともに喜びをわかちあいたいと思います。20周年といえはちょうど成人の年齢で、いまの在学生在が生まれたころにこの学部ができたこととなります。創設時の理念や先学諸先生方の御努力についてかねがね聞き及んでおりますが、20年のこの節目の年に、先人の功績をふまえたうえで改めて本学部の研究や教育のあり方に再

認識が得られるよう願っているものです。と言いますのも、過去20数年の国際関係の激変には目を見張るものがあり、それらに応じた研究、教育の柔軟なスタイルが要請されていると考えるからであります。急速に拡大するグローバル化の動向を見据えつつ、同時に、わたしは虫の目で西アジアの言語や文化にこだわり続けたいと思っています。



1996年度赴任
国際文化学科
東アジアの歴史

岡田宏二

私と国際関係学部とのかかわりは、ちょうど20年前の学部発足当初、文学部に所属しておりましたが、文部省への申請のために国際関係学部の授業を担当することで協力したことからはじまります。その後、国際関係学部に移りましたが、ちょうど大学院を設置する計画がなされていた時期で、大学院設置準備委員として、アジア地域研究科の青写

真をつくり、文部省に何度も足を運び、ようやく修士と博士課程の設置が認可されたことが印象に残っています。その後、学科主任と教務委員長を担当し、昨年度まで4年間にわたって、東松山学部連合教務委員長として、「教養教育」の改革に取り組み、ようやく学生が自由に選べる「全学共通科目」を開設することができました。



1998年度赴任
国際文化学科
南アジアの芸術

井上貴子

今年、厚くて重い漬物石のような本を出した。インドとの長い付き合いの総決算である。近頃、老後をおだやかに送りたいと考えることも多くなったが、もう一花咲かせようという気持ちも残っている。人間は実に欲の深い生き物だ。10年後、20年後の自分を想像するのは難しいが、できるだけアーティステックに生きる自分を想像したいと思う。だ

けどやっぱり若さはうらやましい。なんといっても、インドでのフィールドワークが年々つらくなってきた私とは体力が違う。残された時間の長さが違う。若さはかけがえのない宝だ。若いみなさんは、私にはない宝をもち、存在するだけで価値がある。私が伝えたいのは、それを大事にしてほしいということだ。



1998年度赴任
国際関係学科
東南アジアの経済

遠藤 元

本学に着任して早9年目となります。その間、教員としての喜びをたくさん味わってきましたが、とりわけ嬉しいのは、入学時にあまりやる気の見られなかった学生が次第にアジアと接する楽しみを知り、満足して卒業して行くのを見送ることです。「この学部を選んでよかった」と学生が言うのを何度も耳にしましたが、そのたびに、私もこの学部の

教員になって良かったと改めて思いました。現在、「アジアはますます重要になる」といろんなところで言われています。しかし、本学部ほど真摯にアジア(の人々)と接している大学・学部は他にほとんどありません。この良き伝統を今後も大切にしたい、大切にしてほしいと願っています。



1998年度赴任
国際文化学科
比較民俗学

高桑 守

私が本学に赴任したのは、確か1998年のことだったと思います。その前年1年間、非常勤講師として比較民俗学の講義を担当しました。はやいもので8年の歳月がすぎましたが、この間、多くの学生諸君と交わることができ、楽しい思い出がつきません。演Ⅱのゼミ生と福島県南会津の山村、檜枝岐村へ調査合宿に出かけた折の数々の出来事は、参加した学生諸君と

共有してきた一つの財産だと思っています。檜枝岐調査は毎年続けて今日も実施しています。既に100人余りの大東生が訪問しています。先日も偶然、数年前卒業した元ゼミ生と東上線車中で出会い、檜枝岐のことなどなつかしく語り、近い再会を約束してわかれしました。このような卒業生が諸々の場で活躍している姿を遠目からみているのは楽しいものです。



1998年度赴任
国際文化学科
コリア語

古川宣子

「比企丘陵のアジア・アカデミー」
東上線に乗って、越辺川を越え高坂駅に近づいてくると、比企丘陵の広大な森の中腹に、レンガ色の大東文化大学東松山キャンパスが見えはじめます。キャンパスの奥には、岩殿観音のある正法寺、そして春先の桜が壮観な物見山、サイクリングやマラソンの練習コースにもなっている市民の森など、他の大学には無い(板橋キャンパスにも!)素晴らしい癒しの森が広がっています。この

比企丘陵の森のアジア・アカデミー(自称)に来て、はや9年目になりました。2003年に海外研究でバンクーバーのプリティッシュ・コロンビア大学韓国研究センターに訪問研究員として滞在したことがあります。大学内には原生林が広がり、海の入江まで見える世界的にも美しいキャンパスでしたが、それにも劣らない素晴らしい環境の国際関係学部でスローで創造的な研究・教育生活ができればと思っています。



1999年度赴任
国際関係学科
人文地理学

朴 倬玄

今年で勤務が7年目になりますが、私の専門は、経済・都市地理学です。具体的な研究テーマは、人・物・情報の流動や企業の貿易・海外進出行動など、様々な経済活動のグローバル化現象に着目して、国境を越える都市間の結合依存関係について研究しています。国際関係学部では、アジア地域の社会・文化・経済を専門とするスタッフが非常に多く、学

生は、ゼミ・講義を通じて、アジア諸地域に関心を持ち、将来の自分の姿を真剣に考えています。私のゼミでは、学生が「地域分析方法」を身につけて、企業活動と地域構造との関係を勉強し、卒論としてまとめてきました。今後も、国際関係学部出身の優秀な人材が、日本を越えて、アジアでパワフルに活動することを期待しています。



1999年度赴任
国際文化学科
東アジアの文化

蜂屋邦夫

本学に来て早や8年目、それ以前の、研究の遂行を中心とし、大学院の授業を担当して大勢の研究者を育ててきた状況と対比すれば、180度の様変わりと言ってよい。来た当座は、前後様変わりのギャップにとまどったが、今や学部や大学院にすっかり馴染んだ。馴れの第一は、漢字について学生がどんな読み方をしてくれようとも驚かなくなったことで

ある。その結果、自分の書くものにはルビをたくさんつけるようになった。馴れの第二は、知識の断絶に意気阻喪しなくなったことである。そんなことも知らないの？ と言うかわりに、丁寧に説明するようになった。高校生に近い1年生も4年生となれば様になっていく。本学部生も、そう捨てたものではない。



2002年度赴任
国際文化学科
アラビア語

本田孝一

国際関係学部20周年おめでとうございます。私は本学に赴任してからまだ5年しか経っていませんが、もっと長く前から居たような気がします。それはなぜかと考えるに、本学部のみなさんが家族の一員のように迎えてくれ、和気あいあいとした雰囲気の中に身を置くことができているからだと思います。それは偏に20年に亘って本学を築き上げてき

たみなさんの努力の成果に相違ありません。本当に国際関係学部20周年おめでとうございます。

私はみなさんの序列に加えていただき、私の専門である「アラビア書道」「アラビア語」でさらに一層本学部を盛りたてていくことを改めて肝に銘じたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



2003 年度赴任
国際関係学科
南アジアの政治

井上恭子

国際関係学部に来て4年目の、まだまだ「新米」教師です。専門は、インドを中心とした南アジアの現代政治です。

本学部に来て強く感じたことは、アジアを基点に幅広く国際社会を学べる環境が整えられているということです。また、アジア・ミックスやスピーチコンテストなどの大きなイベントが、学生により見事に

運営されていることなどを見るにつけ、柔軟な思考と自発性・協調性を促す環境も整えられていることを実感します。講義と演習では、南アジアをとおして広い世界を知り、自分が国際社会の一員であり、かつ、世界の人々と共生している存在であるという認識を身につけて欲しいと願っています。

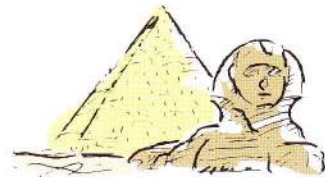


2003 年度赴任
国際文化学科
西アジアの歴史

高野太輔

私は2003年に着任したばかりの新米講師で、「西アジアの歴史」や「イスラム文化論」などの講義を担当しております。この学部が誕生したとき、私はまだ高校3年生でしたから、第1期卒業生の方々よりも年下ということになります。まだまだ教える

ことよりも、教わることの方が多い身の上ですが、国際関係学部の新しい歴史を作るために、微力を尽くしたいと思います。



2003 年度赴任
国際関係学科
英語

ギャレン・ムイ

Considering the 20th anniversary of the Faculty of International Relations it is worth recalling 8 decades of Daito history. Daito was the primary Japanese educational institution for studying and assisting Asia. Today we have 2 decades of our faculty's history of studying Asia to consider. Our conception of Asia has been transformed, embracing the range from West through to East Asia, encompassing the fringes of the continent and it's interactions with all other parts of the globe.

The Daito pioneers would have heartily supported these developments within our faculty. As Japan's role within Asia has transformed, so have the interactions of Japanese with Asians. The process of aiding economic development in Asia is accompanied not only by efforts to aid cultural preservation, political stability, and security, but also by learning from Asia for the benefit of all. Our faculty is uniquely well suited to provide a unique range of skills and experience for facilitating this two-way, multi-functional process, and it is our students and graduates who will provide this vital link between Japan and Asia.



2004年度赴任
国際文化学科
東アジアの芸術

水野さや

20周年という記念すべき年に、国際関係学部に関わる立場でいられることをたいへん光榮に思っています。2004年に赴任して以来、アジアミックスの料理祭、アジアの言語によるスピーチコンテスト、現地研修など、この学部ならではの体験を楽しく味わうことができました。私自身、この間にアジアに対す

る見識が増し、大変有意義な経験となりました。これからもますますアジアへ、世界へ向けて、学部のさらなる発展・飛躍をお祈りします。また、自らも乗り遅れないようにしなければと決意を新たにするとともに、微力ながらそのお手伝いができればと思っています。



2005年度赴任
国際関係学科
南アジアの経済

須田敏彦

昨年大東大に着任した新米教師です。最近では学生の大学選びも都心回帰の傾向にあるといわれています。しかし、私が担当している講義の一つ「農業・食料問題」の視点からすると、緑豊かな比企丘陵に抱かれ周りに純農村風景が残っている東松山キャンパスは、最良の学習環境にあるといえます。キャンパスからわずか100mほどの距離に、まだ養蚕を

営んでいる農家があったりします。歩いて行ける範囲には、里山に囲まれた棚田や灌漑用の溜め池など、モンスーンアジアに特徴的な風景が見られます。このすばらしい環境をフルに利用し、足下にあるアジアから五感（視聴嗅味触）を使ってアジアを、そして世界を学んでいって欲しいですね。



2005年度赴任
国際関係学科
英語

瀧口明子

昨春、新入生でキャンパスが華やぐ少し前、東松山校舎に来た日のことを今でもよく思い出します。私も教員の新生生だったのです。バスを降りて第2研究棟へ向かう坂道は緑が美しく、山の空気で、とても静かでした。土手の苔の間に葶を見つけて感激しながら歩いていると、まだたどたどしく初々しい小鳥の音が聞こえてきました。この自然を大切に

しながら、20周年を迎えた学部とともに、さらに成長してゆけたらと思います。英語英文学、東西文化交流史、茶の文化史、コミュニケーション史などを専攻していますので、ふらりと遊びにいらして下さい。いつでも里帰りできる母校でありたいと思っています。一緒にお茶を、がテーマです。



2005年度赴任
国際関係学科
西アジアの政治

松本 弘

昨年（2005年）、本学部に就職いたしました松本です。講義では「西アジアの政治」を担当し、中東の民主化、イスラーム主義などを研究テーマとしております。本学部ができて間もないころ、日本中東学会の大会が東松山キャンパスで開催され、修士課程を出たばかりで参加したことを懐かしく思い出します。

その後、在イエメン日本大使館専門調査員、イギリス留学、研究所勤務などを経て、今は東松山キャンパスに通勤していることに不思議な「ご縁」を感じます。それゆえ、本学部での僕の生活が、学生諸氏にとっても良い「ご縁」となるよう、努力したいと思っています。



2005年度赴任
国際文化学科
東アジアの政治

鹿 錫俊

「教学相長」という成語があります。教える側と学ぶ側が互いに切磋琢磨を通してともに成長すること、また、教えることと学ぶことに同時に努めることによって発展を成し遂げること、という二つの意味を含んでいます。この二つの意味を忠実に

貫徹していくことを、教員としての自戒にしていきたいと思えます。



2006年度赴任
国際関係学科
東アジアの経済

岡本信広

国際関係学部は、アジアの地域言語の習得を基礎に広範囲にわたるアジア地域の総合理解を目指して創設された。すでに卒業生は3000人を超えており、日本の地で、アジアの地で国際社会の視点に立って活躍されている。私が以前北京に滞在していた時も大東大生の活躍を目にし

た。学部創設20周年、人間でいえば、まさに大学生の時代であり、飛翔の時に備えて力を蓄える時でもある。少子化の中、大学を取り巻く環境は厳しくなっているとはいえ、工夫を凝らしながら、私も学部発展に貢献していきたいと思う。



2006年度赴任
国際文化学科
ヴェトナム語

加藤 栄

国際関係学部創立20周年にあたり、心よりお祝いを申し上げます。

私は1988年より本学部でベトナム語の非常勤講師を勤め、今年度、助教授に採用された者ですが、学部のみを教員としての歩みとほぼ同じくし、またこのような記念すべき年に専任の職を得たことに望外の喜びを感じております。

これからも学生の教育に日々努力と工夫を重ね、専門の研究に精進していく所存です。

誠に微力ながら、それが今後の学部の発展にも貢献することになれば幸いに存じます。



2006年度赴任
国際関係学科
法学概論

廣江倫子

本年度から専任講師として本学部に赴任してまいりました廣江倫子と申します。本学部は、全国の国際関係学部の中でも、アジア研究を専門とする大変特色のある学部だと前々から伺っており、期待を持って赴任いたしました。まだ数ヶ月の経験しかありませんが、講義に出席している学生達のアジアに対する認識や関心のレベルがとても高いことに驚か

されました。本当に嬉しい驚きです。これから、日本とアジアの関係がますます深まっていくと思いますが、その中で、国際関係学部の卒業生達の活躍の場が一層広がるものと思います。私もより良い国際関係学部作りに貢献できたらと願っています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



国際関係学部で学ぶこと…



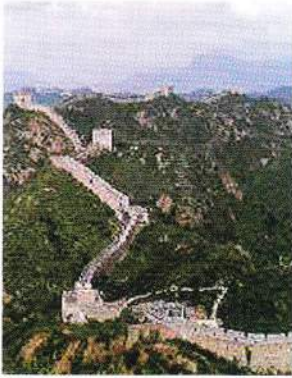
国際関係学部には、第一線の研究で活動している先生方が数多く在籍しています。学部は関係学科(経済・政治・社会)、文化学科(歴史・文化・芸術)と分かれており、それぞれの専門知識を学ぶことができ、また学生自身が望めばもう一方の学科を学ぶことも容易です。授業は専門的な深い知識から現地の生活に根付いたお話まで聞くことができ、中には体験型の授業もあり、学生アンケートでは全学部中満足度1位になりました。基礎的な学力をつけ、また将来の自分にどのような知識という栄養をあたえるか、それを学生自身が選択し実行することができるのもこの学部の大きな魅力です。

経済・政治・社会・
歴史・文化・芸術
を学ぶ

アジア9言語
を学ぶ

中国・コリア・タイ・ヴェトナム・インドネシア・インド・パキスタン・イラン・エジプト…。これらの国の言語を勉強する学生がいます。それぞれの視点からアジアをみつめる学生がいます。それは、この小さな空間に多種多様な人間が存在することをも意味します。独特な文化を築き、歴史を重ねてきたアジア諸国…。そこから様々な価値観が生まれます。そこから国際関係学部が創られて行くのです。

アジア地域に関する経済・文化等を学ぶことは当然のことながら、この学部には、学科を越えた学生同士や、学生と教授の交流によって生まれるとても魅力的な人間関係があります。それは豊かな学習環境をも生みだします。そして学習意欲を高め、学習成果を発揮する場が非常に豊富であり、やる気のある多くの学生を応援する環境があります。ここでは、本学部の活動の一部を紹介したいと思います。



万里の長城

登るのはつらいですが、それを補って余りある絶景です。



郵便局

中国の裏通りにある豪華な郵便局。なんとこれでも現役です。



セブン・イレブン

セブン・イレブン北京1号店。売っている商品は若干辛口?

国際関係学部の教育プログラムの1つに現地研修があります。学生たちは主に2年次、自らが履修しているアジア言語の母国へ旅立ちます。そして1ヶ月という期間、行く先々の国で切磋琢磨して学び、ホームステイや日々の生活を通してその文化を肌で体験します。旅行とは違い、同じ言語を学ぶ仲間と生活を共にすることで得られるものがあります。現地研修の研修という言葉には、語学研修だけでなく様々な研修が含まれているのです。現地のもを食べ、現地のもを空気を肌で感じ、現地の人に話しかけて、笑いあう…。学生たちはこの1ヶ月を通して、国際関係学部生として何を見て、何を学ぶのか。今年も多くの学生がアジア各国へ飛び立ちました。どんなアジアを発見してきてくれるのか、楽しみです。

現地研修

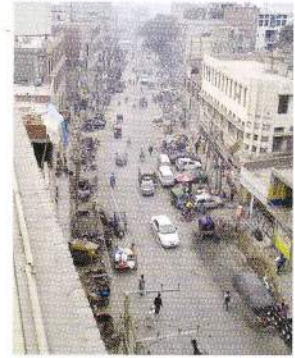


アジアで出会う子供たち ちゃんと照れている?



エスファーンのエマーム広場(イラン)

実際に見ると、その青さと豪華絢爛な様に圧倒されます。



アジアの町並み

バイクの数が多く、三輪車も走っています。



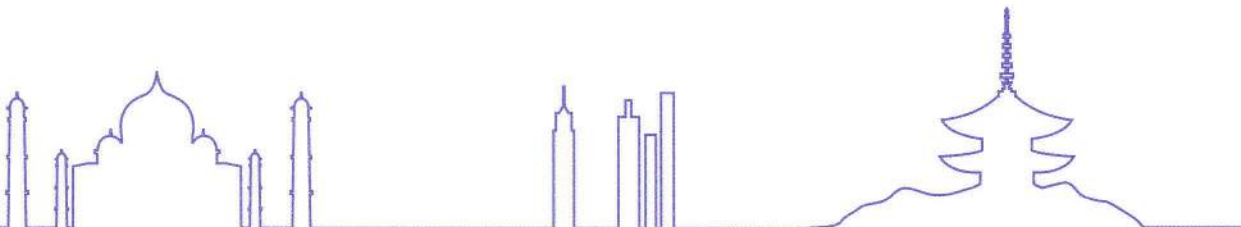
イランの家族

イランの一般的な民家。主に日干し煉瓦で造られています。



糸染め

ペルシャ絨毯などに使われるパイル糸を染めたもの。



国際関係学部生が創り出すイベント

Asian Languages Speech Contest

11月(主催：国際関係学部)

私たち国際関係学部生が学ぶ10言語(留学生科目の日本語を含む)はアジアを学ぶ上で重要な要素。そんな日々の言語学習の成果の場として Asian Languages Speech Contest (通称：スピコン) が設けられています。

各言語3名ずつスピーカーが選ばれ、自作のスピーチをもって舞台上に立ちます。民族衣装を着てスピーチす

る学生や、歌を歌う学生などもいて、目にも耳にも楽しめます。また、内容を理解できるように日本語字幕も流すよう工夫もされています。民俗芸能も鑑賞しつつ、アジア一色に染まった会場では、スピーカーも観客も有意義な時間を過ごせます。

スピコンは今年で第9回を迎えました。イベントを盛り上げるために「学部内から学部外へ・そして学内から学外へ」というコンセプトのもと、近隣のお店などへの宣伝活動も活発に行っています。来年度は記念すべき第10回。これまで以上に素晴らしい舞台となることが期待されます。

言語の授業って？
言語の授業と言ってもあ



なごるなかれ、実際にその国に足を運んでいる先生ばかりなので、現地情報や、人に話したくなるような豆知識を教えてくれるなんてこともしょっちゅうです。特にネイティブの先生による授業は非常に刺激的で、母国の衣装を着て来て下さる先生などもあります。言語ごとにその授業内容にも個性があり、一つの言語だけでなく、他言語の授業も受けてみたい!と思ってしまうほど。



さまざまな民族、文化、宗教が混在し共存するアジア……。その広大なアジアをフィールドワークする私たち国際関係学部。それだけに、学生たちが創り出すバラエティーに富んだイベントも盛りだくさん! 地域言語の学習成果を発表する「アジア・スピーチコンテスト」をはじめ、エスニックな体験を五感で堪能する祭典「アジアミックス」、キャンパスがアジア一色に染まる12月恒例の「アジア・ウィーク」etc…。知れば知るほど、国際関係学部は面白い、そして、アジアは奥深い!

地域研究学会の活動

ASIA MIX

6月(主催：地域研究学会)

「あなたにとってアジアとは？」—そんな問いに、あなたならどんな答えを出しますか？今年で19回目を迎えたASIA MIX(通称アジミ)は、五感全てでアジアを体験できる充実した企画で、とってもお得なイベントです。アジアLOVEな人はもちろん、これまでアジアに興味がなかったり、良いイメージを持てなかった人まで、満足

できること請け合いです。多彩な企画の中でもメインとなるのはエスニック料理祭。9言語の国の料理を各200人分調理し、配布するというものです。1から10までを学生の手で創り上げます。食べるだけでなく、実際にその国のこと、料理のこと、調べて調理して…という行程の中でも十分にアジアを学べているんです。

アジア料理を調理中!



▲ 芸能観賞(ベリーダンス)

民族衣装とメヘンディー(タトゥー)体験 ▶



「地域研究学会」：国際関係学部には所属する全学部生・院生・教授から成る研究組織。国際関係学部ではアジアを中心とした勉強を行っています。大学の講義では受身になりがち。アジアについてもっと主体的に知ろうという思いから地域研究学会は生まれました。



▲ パキスタン研究班の展示



井上貴子先生のBIG東大バンド! ジャウトしてます



▲ ガムラン研究班発表の様子 ▲

研究班の研究発表の場として、一週間にわたり開催されるイベント。1年間の研究成果を展示や演奏、実演など趣向を凝らした方法で披露します。カレーの無料配布なども行われ、地域研究学会による後期最大のイベントです。

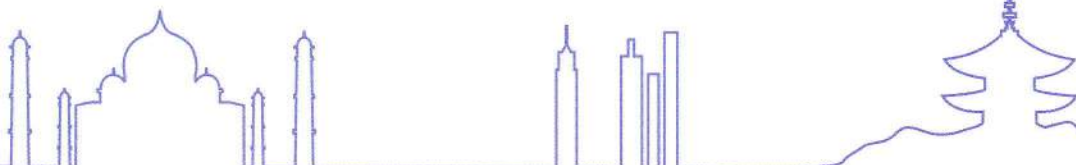
❖ 研究班って? ❖

アジアの○○についてもっと知りたい! でも費用が…

という学部生のために、地域研究学会では研究班助成金制度を設けています。現在は、ガムラン研究班カチャンロンチャ・民族衣装研究班・パキスタン研究班・アジア食文化研究班・アジア料理研究班の5班が活動中ですが、この制度がさらに活用されれば、国際関係学部の活性化にも繋がるでしょう。

12月(主催：地域研究学会)

ASIA WEEK



思い出写真館



1985

■建設中のキャンパス



Recollection photo studio

国際関係学部の歩み

1985

- 10.20 ● 関越自動車道全線開通
- 21年ぶり阪神タイガース優勝
- つくば科学万博開催
- 08.12 ● 日航ジャンボ機御巣鷹山墜落
- 03.10 ● ソ連チエルネンコ書記長死去
後任にミハエル・ゴルバチョフ選出。

1986



■国際関係学部 第1回入学式
[1986.04]



1986

01.28
●NASAスペースシャトル
「チャレンジャー」墜落事故

04.26
●チェルノブイリ原発事故

05.08
●英タイアナ妃来日

11.21
●伊豆大島大噴火



■エスニック料理祭
[1988.11]



1988



■国際関係学部 第1期生卒業式 [1990.03]



1989

1987

- 03.17 後楽園に東京ドーム落成

1988

- 02.10 ドラゴンクエスト3で徹夜の行列
- 03.13 青函トンネル開業
- 04.10 瀬戸大橋開業
- 11.29 大韓航空機爆破テロ事件

- 04.01 国鉄分割・民営化、JRスタート

1989

- 04.01 消費税スタート。税率3%
- 01.17 新元号「平成」へ
- 01.17 昭和天皇死去。87歳
- 09.17-10.02 第24回オリンピック ソウル

1989



■国際関係学部をつとい
「オリエンタル舞踏会」
[1989.05.18]



●バブル経済
東証平均株価、年末に
3万8915円の最高値記録

11.09
●ベルリンの壁崩壊

07.23
●第15回参議院議員選挙
与野党逆転

06.24
●美空ひばり死去

06.03
●天安門事件



■アジアミックス '94 [1994.06]

1994

1995



■アジアミックス '95 [1995.06]



1990

1991

1992

1993

1994

1995

● 10.03
東西ドイツが統一

● 01.06
湾岸戦争勃発

● 08.19
ソ連崩壊

● 映画『ジュラシック・パーク』ヒット

● 07.25-08.09
第25回オリンピック バルセロナ

● 08.01
きんさん、ぎんさん満百歳

● 01.27
曙関、初の外国人横綱に

● 09.30
コメ不足でタイ米緊急輸入

● 07.08
日本人初の女性宇宙飛行士、
向井千秋さん飛ぶ

● 01.17
阪神大震災

● 03.20
地下鉄サリン事件、オウム事件摘発

● 野茂、大リーグで初優勝

1996



■アジアミックス '96 [1996.11]



1997



■アジアミックス '97 [1997.11]



■第1回スピーチコンテスト [1997]



1996

1997

●英、狂牛病騒動

●女子高生のルーズソックス流行

●ドラマ「ロング・バケーション」ヒット

●07.20-08.04
●第26回オリンピック アトランタ

●病原性大腸菌「O157」が猛威

●07.01
●香港、中国に返還

●08.31
●ダイアナ元英皇太子妃パリで交通事故死

●金融機関の経営破綻相次ぐ

●たまごっち大ブーム

●12.18
●「韓国」大統領選で、金大中氏当選



■アジアミックス '98 [1998.06]

1998



■アジアミックス '99 [1999.06]



■アジアミックス '01 [2001.06]

1999



1998

1999

2000

2001

05.11
●インド、パキスタンが核実験

●長野冬季五輪開催
●サッカーW杯、日本初出場

01.01
●欧州統一通貨「ユーロ」導入

12.20
●マカオが中国に返還

●長野冬季五輪開催
09.16-10.01
●第27回オリンピック シドニー

●小泉内閣発足

09.11
●米中枢部に同時多発テロ

2002

■アジアミックス '02
[2002.06]



2003



■タイ現地研修 [2003.09]



■アジアミックス '04
[2004.06]



■アジアミックス '05
[2005.06]

2005

2006



2002 — 2003 — 2004 — 2005 — 2006 — Your Future

● FIFAWORLDカップ日韓共催

● 宅軟禁解除

05.06

● 「ビルマ」アウン・サン・スーチーの自宅軟禁解除

● 10.12
● バリ島で爆弾テロ

● 03.20
● 米軍がイラクに侵攻

● 松井ヤンキースへ移籍

● 日本政府、イラクへ自衛隊派遣決定

● 「冬のソナタ」韓流ブーム

● 08.13-29
● 第28回オリンピック アテネ

● 04.25
● JRR福知山線
● 脱線事故

● 耐震データ
● 偽造事件発覚

● 国際関係学部
● 開設20周年

国際関係学部 20周年記念誌 2006年12月

編集人：大東文化大学国際関係学部
20周年記念事業委員会

発行人：押川典昭

発行所：大東文化大学国際関係学部
〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿 560
TEL.0493-31-1513 FAX.0493-31-1512

印刷所：大屋印刷株式会社

السَّلَامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ

السَّلَامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ

السَّلَامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ

السَّلَامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ

السَّلَامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ

السَّلَامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ

السَّلَامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ

السَّلَامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ



大東文化大学
DAITO BUNKA UNIVERSITY

国際関係学部

〒355-8501

埼玉県東松山市岩殿560

TEL.0493-31-1513(ダイヤルイン)